



地域とつながるFFG連携プロジェクト

FFGの幅広いネットワークを活かした地方創生の具体的な事例をご紹介します。

ジャパネットグループ V・ファーレン長崎の取り組み

私たちFFGは、「地域と共に未来を創っていくこと」をスローガンに、観光・農業・雇用・産業・健康・教育など様々な分野での地方創生に取り組んでいます。今回は、長崎唯一のプロサッカーチームであり、ジャパネットグループの一員である、「株式会社V・ファーレン長崎」のスポーツを通じた地域活性化への取り組みを紹介します。

2005年に創設されたV・ファーレン長崎。十八親和銀行は、長年スポンサーを務めており、現在はプレミアムパートナーとして、クラブマスコットヴィヴィくんのユニフォームにロゴ掲出を行っています。V・ファーレン長崎は、2017年に一時経営難に陥りましたが、もともとスポンサーを務めていたジャパネットグループが「長崎唯一のプロサッカーチームを消滅させてはいけない」という、長崎への想いのもと100%出資を行って以降、チームの動きが活発化しています。

スポーツの力を地域の活性化にとの想いが高まったのは、2024年開業予定の「長崎スタジアムシティプロジェクト」にジャパネットグループが着手してからとのこと。V・ファーレン長崎は、長崎県下21の市町すべてをホームタウンとしてお

スポンサー企業による年1回の冠試合開催～十八親和銀行DAY～ 2021年11月3日(水・祝)開催



FFG ブランドキャラクターのユーモと開催挨拶をする十八親和銀行・森頭取



試合前の選手とエスコートキッズ



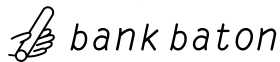
スタジアム外の様子



十八親和銀行・森頭取による始球式



冠試合を楽しむ長崎市民



り、子供対象のサッカー教室などを主要都市だけでなく、離島地区などでも年に数回開催しています。また、若手育成のためのJエリートリーグの試合は平戸市・雲仙市などホームスタジアムのある諫早市以外の市町で観戦できるよう工夫し、長崎県全体でV・ファーレン長崎に触れていただける機会を創出しています。また、日々フェア参加などホームタウン活動を行っているヴィヴィくんを中心に、SNSなどでホームタウン21の市町の魅力発信を行っています。「長崎のチームが全国的に『長崎に対する誇り』が芽生えたらありがたい。」とV・ファーレン長崎高田春奈代表取締役社長。

FFGと十八親和銀行が主催する出島メッセ長崎のこけら落としイベントにも高田社長の講演ほか、長崎スタジアムシティ体感ブース出展などのご協力をいただいています。

プロバスケットボールチームB3リーグに所属する「長崎ヴェルカ」も始動。産業構造など100年に一度の変化の中にある長崎で、ジャパネットグループによるスポーツを軸とした新たな動きを、FFGとしてしっかりサポートし、共創を進めてまいります。

ジャパネットグループおよび十八親和銀行 協業でのスポーツ振興



試合前の十八親和銀行によるぬり絵コーナー



2024年開業予定「長崎スタジアムシティ」の模型



ユーモ（左）とV・ファーレン長崎マスコットのヴィヴィくん（右）



十八親和銀行DAYにて（左2人目から）ヴィヴィくん、大村市マスコットのおむらんちゃん、大庭副頭取、ユーモ

©VVN

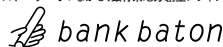


株式会社V・ファーレン長崎 高田春奈社長（中央）
十八親和銀行地域振興部 成瀬（左）、中村（右）



V・ファーレン長崎マスコットのヴィヴィくん

ストーリーでつながる、銀行系地方創生メディア



【SDGsとは】2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された国際目標です。2030年までに「誰ひとり取り残さない」社会を実現することを目指しており、下記の17の目標（ゴール）と、更に細分化された169のターゲットから構成されています。

